

# 若者が魅力感じる市に

## 倉成市長 水沢工高で出前授業

県立水沢工業高校  
(日當仁己校長)でこのほど、2年生112人を対象にした社会人出前授業が行われた。倉成淳市長が講師を務め、市の現状や展望、地元就職のメリットなどを伝え「若い人が魅力を感じる市にしていかなければならない」と力を込めた。

同校は生徒の進路選択の一助にしようと、出前授業を実施。近年、胆江管内・県内就職が増加傾向にあることから、奥州市に理解を深



め地元就職希望者の将来設計の参考にしても高生たち

らうため、市長を講師に招いた。北上川流域ものづくりネットワー

倉成淳市長の出前授業に耳を傾ける水沢工業高生たち

ク(代表・佐々木光男 県高校教育研究会工業部会長)が開催を支援した。

倉成市長は「奥州市の『未来への投資』市の展望と水沢工業高の展望への期待」と題して講話した。人口予測を示し、「奥州は自然減と社会減の両方が起きている。子育て世代を増やすための方策がまちづくりのテーマになっている」と述べた。

市の財政課題として、公立病院の債務改善と岩手競馬の経営改善を挙げ「課題を見える化し、市民と共に検証しながら進めることが重要」と強調。市長直轄

の「寄り添う奥州会議プロジェクトチーム」の取り組みや、市民生活総合支援アプリ「ほちっと奥州」も紹介した。

生徒たちには、投資が必要ない改善策実践として笑顔と5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)を提案。「難しいことをやろうとしなくていい。普段からできることを継続していくのが重要。笑顔はポジティブの源になる」と語り掛けた。

授業を終え、今野眺弥さん(16)は「市が一丸となり進まなければ解決できない課題があると分かった。そのためにも、地域の協調性

が大切だと感じた」と話していた。